

アナログカメラをデジタル化する2つの方法と

それぞれのメリット・デメリット「どの方法がより最適かの判断資料」

アナログカメラをデジタル化する2つの方法を紹介している資料です。1つ目はアナログカメラをすべて変更する方法を、2つ目は現在のアナログカメラを再利用する方法について、変更の流れ、メリットとデメリットをまとめています。それぞれ一長一短ありますので、メリットとデメリットをわかりやすい一覧表にまとめてご紹介しています。動体検知の機能紹介、検知した時のイメージ、感度の考え方など、詳しくご紹介しています。

[申し込みする>>](#)

どちらが最適か？ メリットとデメリット

ご紹介した2つの方法について、どちらがより最適か、メリットとデメリットをまとめました。ここでは、アナログカメラを使い続けるという選択肢も入れて3つのパターンで比較検討しています。

置き換えパターン	メリット	デメリット
アナログのまま	アナログカメラには映像に遅延がないため、リアルタイムな映像が得られるメリットがあります。そのため、映像遅延がもたらさない映像ではアナログカメラのままがよいでしょう。	<ul style="list-style-type: none">カメラと録画装置の選択の自由度が少ない映像の増設が現場でなければ確認できないケースが多い。映像解析ソフトなどの連携ができないケースが多い。
全てを同時にデジタル化する	カメラの映像を統合的に管理できるようになります。管理工数も削減可能です。画像解析AIなど連携でき、映像の活用にも展開できます。また同時に入れ替えるため、導入コストを安くできる可能性が有ります（工事費用やカメラ購入コストの価格交渉がしやすいため）	<ul style="list-style-type: none">ネットワークカメラのため、十分な帯域が確保できない場合、タイムラグが発生する初期の購入費用が高くなる全ての場所での入れ替えの工数が必要になる
徐々にデジタル化する	今使っているアナログカメラをそのまま使えます。エンコーダーを使えば、クラウドでカメラの映像を統合的に管理できるようになります。故障したアナログカメラ、交換時期の来たアナログカメラを徐々に置き換えていくことで、時期が来るとともに、デジタル化が進みます。	<ul style="list-style-type: none">ネットワークカメラのため、十分な帯域が確保できない場合、タイムラグが発生するエンコーダーの費用がかかるエンコーダーを取り回しデバイスが増えるため故障率・障害率が高くなる、管理工数が増える

主な目次

1. アナログカメラをデジタル化する2つの方法
 - (ア) アナログカメラをデジタル化する2つの方法とは
 - (イ) アナログカメラを全てネットワークカメラに変更する場合
 - (ウ) 既存のアナログカメラを再利用してデジタル化する場合
 - (エ) アナログカメラを継続利用しながらもクラウドで映像管理
 - (オ) メリット・デメリット一覧表
 - (カ)
2. 徐々にデジタル化を支援する VisualStage Pro powered by Arcules のご紹介
 - (ア) VisualStage Pro とは
 - (イ) VisualStage Pro が提供する価値
 - (ウ) VisualStage Pro ならではの強み（マルチベンダーカメラ対応）
 - (エ) VisualStage Pro ならではの強み（録画モードの選択）
 - (オ) VisualStage Pro ならではの強み（使いやすいユーザーインターフェース）
 - (カ) VisualStage Pro ならではの強み（強固なセキュリティ対策）

[申し込みする>>](#)